

キラリ★ 話題の「ひと」



今井 美砂子 さん
(下彦間町)

○プロフィール
押し花インストラクター、行政相談委員、佐野市男女共同参画情報紙「パレット」編集委員。

押し花絵 『天慶の乱』

押し花の作品をご覧になったことはありますか。植物の特色を生かし、自由に表現してあります。そんな押し花の魅力を伝え始めて20年になる今井さんは、その節目として何か記念になる作品を残したいという思いで、押し花のお仲間たち総勢26人で押し花絵『天慶の乱』を制作しました。そして、その作品をたくさん子どもたちに見てもらい、押し花に関心を持ってもらおうと2020年に、地元田沼西中学区に開校する「あそ野学園義務教育学校」に寄贈することになりました。また、『天慶の乱』で活躍した藤原秀郷は唐沢山に城を築き、関西より鋳物師を移住させ天明鋳物を広めたと伝えられており、郷土の偉人、歴史も合わせて知ってもらいたいという思いがあるそうです。

馬にまたがった秀郷や将門らはつくしの袴や葉ボタン、パンジーなどで勢いよく表現され、風景の川や松はアジサイやパセリ、ごぼ

うで色鮮やかに表現されています。また、10周年の節目の年にも同じように押し花絵『佐野かるた』を制作し市に寄贈しています。そして、今年の作品展での収益金はすべて佐野市社会福祉協議会に寄付されました。

これからも、福祉施設や公共施設での講座などを通して、皆さんが元気になる押し花の魅力伝えていきたいと、笑顔で押し花愛を語ってくれました。

(市民記者 中里聖子)



寄贈された“押し花絵「天慶の乱」”

市長からの メッセージ



今年の夏は記録的な猛暑となり、本市もこれまでの最高気温を塗り替えるほか、暑さ日本一にもなるなど、本当に暑い夏でした。今月に入ってもまだまだ厳しい残暑が続くそうですので、引き続き暑さ対策をお願いします。

先月11日、12日には「さの秀郷まつり」が盛大に開催されました。この2日間は猛暑の中休みで、暑さも和らぎ絶好の天候のもと、秀郷流流鏑馬や市民総おどり、そしてみこし・おはやし巡行など盛大に開催されました。翌日からお盆ということもあり、帰省客など多くの方に参加・見物していただきました。ご来場された皆さん、ご協力をいただいた皆さんに、心から御礼申し上げます。

さて、今月は市民のスポーツの祭典である市民体育祭が開催されます。球技大会を皮切りに、9日には陸上大会が行われます。各支部代表の選手の皆さんには、白熱した競技を繰り広げてもらいたいと思います。

また、22日、23日には、佐野市国際クリケット場のこけら落としイベントとして「サマーピクニック&クリケットin佐野」を開催します。英国を始めとするクリケットの盛んな国々7カ国の各大使館選抜チームと日本による対抗戦のほか、様々な催しが行われます。皆さん、ぜひ会場に足を運んでください。

30日には、2年に一度の佐野市総合防災訓練を田沼グリーンスポーツセンターで行います。各地で地震や豪雨による災害など発生していますが、いつ本市で起こっても不思議ではありません。総合防災訓練により、防災活動の技術向上と防災・減災への意識の高揚を目指してまいります。皆さんも会場へ来ていただくとともに、身近な危険箇所や避難場所の確認など日頃の備えをお願いします。

岡部正英



第26回さの秀郷まつりが盛大に開催！

8月11日・12日、市役所周辺にて秀郷まつりが開催されました。11日には恒例の流鏝馬や、新たに佐野ブランド大使に就任した佐野市出身のラッパーDOTAMAさんのライブなどが行われ、大いに盛り上がりました。

また12日には、隔年で開催のキャンペーンスタッフコンテスト、佐野東高校によるファッションショーなどが行われ、ステージを彩りました。夜には恒例のみこし・おはやし巡行がフィナーレを飾り、熱い2日間を締めくくりました。まつりの様子は市のフェイスブックでも紹介しています。ぜひご覧ください。



佐野フォトクラブ写真展

佐野フォトクラブ主催の写真展が、9月28日から30日まで、「たぬまふるさと館」にて開催されます。

同会は平成17年3月に会員18人で発足。以来、写真展の開催を目的として、その他県展やしもつけ写真大賞展などにチャレンジしてきました。発足当時から、「フォトマスターEX」を取得の飯島秀雄さんのご指導の下に活動。特に現在のデジタルカメラの進歩に伴い、撮影技術の向上や現地での実践的な活動を行うなどの指導の中で、多くの会員が各種のコンテストに入賞しています。

今回第14回写真展の開催にあたり、会長の川田武男さんは、多くの方に見ていただきたいと話しています。あわせて、一緒に楽しく活動して下さる会員募集中とのことです。

ご来場お待ちしております。

(市民記者 葛貫郁子)



佐野フォトクラブの皆さん



昨年の写真展の様子

佐野弁 ばんてい

方言なのか共通語なのかわからない
あさつての翌日は、シアサツテ？
それともヤナサツテ？

生まれ育った土地に長年住んでいると、ことばによっては、方言なのか共通語なのか判別しにくいものがあります。故郷で通用すれば、どこでも通用するだろうという思い込みがあるからでしょう。

山芋・里芋・じゃがいも・さつまいもなどは、総称して共通語では「いも」といいます。しかし、方言でいうイモは限定的で里芋のみをいいます。これ以外の芋類を指して、イモということはありません。また、柱や塀などに寄りかかることをオツカカルとかヨツカカルといったり、紐、髪、紙、布など（比較的細く糸状のもの、薄くて平面的なもの）を、はさみで切ることをハギルといいます。最近はいまふ少なくなりましたが、「来ない」ことを、キナイとかキネーなどといいます。どこへ行っても通じそうな方言ですね。

ところで、「あさつて」の次の日は何というのでしょうか。かつて佐野では、「あさつて」の次の日をヤナサツテ（「ヤノアサツテ」の変化語）といい、その次の日をシアサツテといっていました。この他に、シアサツテ→ヤナサツテという人もいました。

ところが、だんだん年月が経つにつれて、共通語といわれるシアサツテ→ヤナサツテという言い方が増えてきました。それは東京がもととあさつての翌日をシアサツテといっていたので、その影響によるものです。最近「ヤナサツテ→シアサツテ」という言い方は、だんだん衰える傾向にあります。

(市民記者 森下喜一)

今回の表紙 「自然災害などに備え、水難救助訓練を行いました」(船津川町) 平成30年7月17日撮影 渡良瀬川で人が流されたことを想定し、水難救助訓練が行われました。消防職員らが救助の手順を確かめながら、万一の事態に備えました。